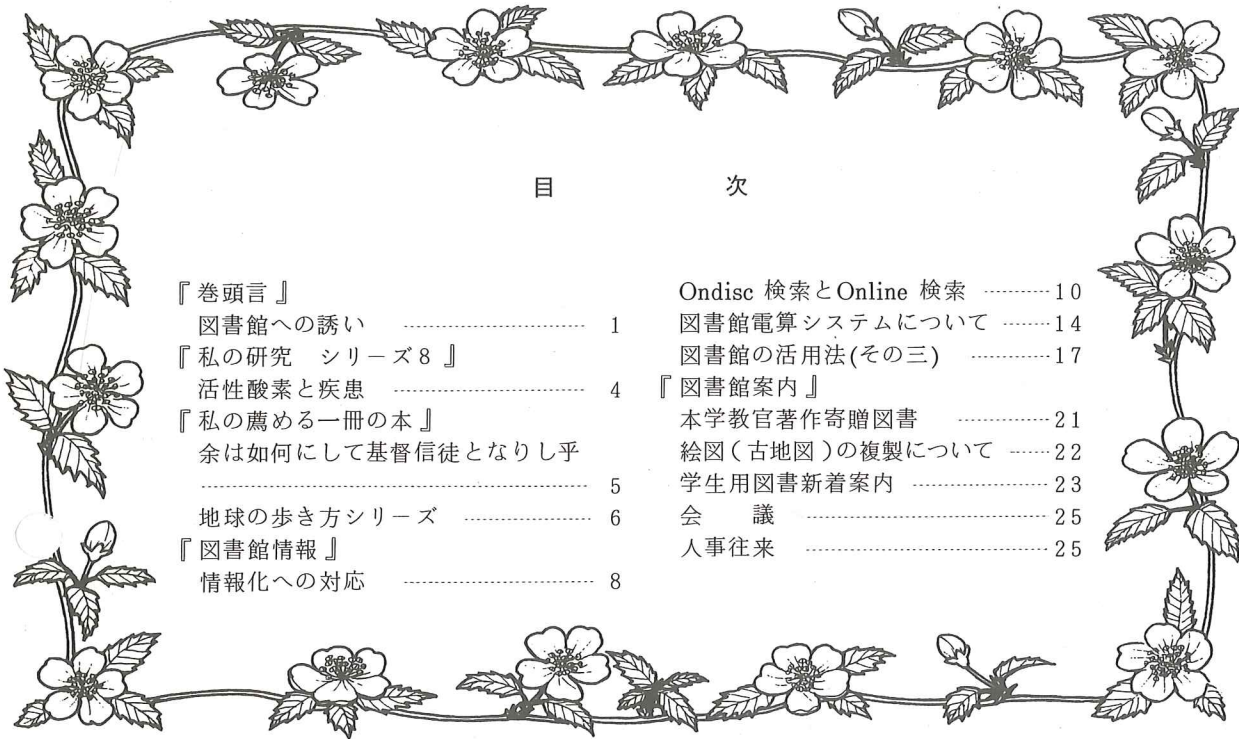




すたぢ

徳島大学附属図書館報 No.49

1994, 4



目 次

『巻頭言』		Ondisc 検索とOnline 検索	10
図書館への誘い	1	図書館電算システムについて	14
『私の研究 シリーズ8』		図書館の活用法(その三)	17
活性酸素と疾患	4	『図書館案内』	
『私の薦める一冊の本』		本学教官著作寄贈図書	21
余は如何にして基督信徒となりし乎	5	絵図(古地図)の複製について	22
地球の歩き方シリーズ	6	学生用図書新着案内	23
『図書館情報』		会 議	25
情報化への対応	8	人事往来	25

『巻頭言』

『附属図書館への誘い』

井 上 秀 夫

新入生の皆さん、徳島大学への入学を心から歓迎いたします。本稿では皆さんに本学附属図書館の概要を紹介し、その利用を勧誘したいと存じます。

教育と研究を使命とする大学にとって情報の宝庫である図書館は、その顔に例えられるほど重要な機関であることには誰も異論はないでしょう。本来大学附属図書館はその使命から主として学部学生のための学習図書館及び教官と大学院生を対象とする研究図書館として機能する二面性を保持しなければなりません。

本学の附属図書館は常三島キャンパスの本館と蔵本キャンパスの分館の二館で構成されており、その資料と入館者に関する最近のデータを別表に示しました。両館を比較しますと年間の資料購入費と入館者総数では大差はありませんが、利用対象者数を考慮した入館者数は学生および教官とも本館が分館よりかなり少ないのが現状であります。この原因として、学生に関しては図書館の利用に不馴れな低学年層の比率が常三島キャンパスで高いことが、また、教官については図書資料の図書館への集中化の差異によると考えられます。蔵本分館は四国では唯一の医・歯・薬の三学部を有する本学の生命科学図書館として資料の図書館への集中化がかなり達成されております。しかし、常三島キャンパスでは資料が学科の資料室や教室に分散しているためその共同利用が制約されており、本館は研究図書館としての役割を果たしていないと云わざるをえません。この集中化は単に学内問題にとどまらず、昨今の図書資料の幾何級数的増加のため重要となってきたILL (Inter-Library Loan, 図書館間相互貸借)での迅速な応答にも不可欠であります。加えて、常三島キャンパスにある大学開放実践センターと地域共同研究センターがめざしている生涯学習及び民間との共同研究の振興のための附属図書館をも含めた大学施設の開放においてもこの資料の集中化が要望されます。特に、本年度中に総合科学部に大学院修士課程が設置されることでもあり、関係者の理解と協力を得て資料の集中化を進め、本館の研究図書館としての機能の向上に努めることが必要です。

別表に示した本学学生の図書館の利用率は高いとは云えません。常三島の本館が学生で賑わうのは共通教育の試験期間に限られているようです。約10年前に本学とほぼ同じ規模(全学生数、4千人)の国立大学で行われた図書館の利用に関するアンケート調査によりますと「利用したことがない」「めったに利用しない」を合せると約28%に達し、図書館を最も利用しない1年生では約40%に増加すると報告されております。大学生の読書と自主的勉学での図書館の重要性を考える時、この数字は高校生時代の指示待ちに馴れた受動的勉学の域を脱しえない、読書離れた学生像を示唆していると思われまます。

高校生までを生徒と呼び、大学生を学生と呼ぶのは教えてもらう立場から自ら学ぶ立場への変化によると云われますが、新入生の皆さんには生徒的大学生からの脱皮に努めていただきたい。これと関連して、現在全国規模で大学教育の改善の試みが進められております。この改革は文部大臣の諮問を受けて平成3年2月に提出された大学審議会の答申に基づくもので、本学でも教養部の総合科学部への統合に伴い平成5年度より入学生は約1.5年の共通教育を受講することになりました。共通教育に含まれる一般教育の理念と目標は大学の教育が専門的な知識の修得のみにとどまることのないように、学生に学問を通じ、広い知識を身につけさせると共に、ものを見る目や自主的・総合的に考える力を養うことにあります。また、学生の学習の充実を図るためゼミナール形式の授業の活用等により、一方的な知識の伝達にとどまらない双方向的授業を重視し、自ら考え、判断させる教育が重要であると考えられております。これらの目標はいずれも学生の自発的・能動的学習によってのみ達成が可能であることに留意して下さい。

学生が学年の進行と共に図書館を利用するようになる契機として、空調完備で居心地がよく、他学生から情報が得られる、レポート作製のための図書資料の利用、自室での勉強は何かと誘惑が多いので学生自習室を利用する、視聴覚室や新聞閲覧ブラウジングルームでの娯楽・くつろぎを求めて、などがあげられる。因に、本館には視聴覚資料として別表に示すように教育・教養用のビデオテープ、クラシック音楽を中心とするCD(貸出し可能)とLP, 教養・娯楽(映画)用のLDが用意されています。

ともあれ、高校生時代は受験勉強のため図書館に縁遠かった皆さんが自主的かつ多様な形態での学習のために図書館の資料とスペースを有効に利用されることを願っております。

(附属図書館長)

別表 徳島大学附属図書館の概要

	本館 (常三島キャンパス)	分館 (蔵本キャンパス)
資料数(平成5年5月現在)		
図書(冊)	441,184	185,005
雑誌(種)	9,162	5,242
視聴覚資料	ビデオテープ 322本 CD 1,250枚 LP 1,000枚 LD 364枚	ビデオテープ 339本 (医学教育用)
年間資料受入れ数(平成4年度)		
図書(冊)	30,532	5,770
雑誌(種)	4,870	1,947
年間資料購入費(平成4年度)	134,865千円	111,687千円
利用対象者数(平成5年度)		
学部学生(大学院生を含む)	4,139 ¹⁾	1,399
教官(助手以上)	301	484
入館者(平成5年度)		
年間入館者 学部学生	156,014	106,277
教官	7,386	41,199
1人当り月間入館回数		
学部学生	3.1	6.3
教官	2.0	7.1

1) 医・歯・薬学部の共通教育受講者

『活性酸素と疾患』

福澤 健治

ヒトをはじめ好気性生物は酸素を利用して生命活動に必要なエネルギーを得ている。ちなみに1日に2,100 Kcalの食事をとる成人の場合、約150モル(75kg)のATPが産生・消費され、そのために約2,700ℓもの空気が使われる。この酸素を利用したエネルギー獲得システムは非常に効率の良い方法で、嫌気性から好気性への進化は生物にとって、人類の歴史における「産業革命」のようなものであった。しかし、化石エネルギーの使用が様々な環境問題を、また第二次産業革命といわれる原子力エネルギーの利用が放射線障害の問題をもたらしたように、酸素の利用は、効率のよいエネルギーの獲得というプラスの面とはうらはらの生体成分の酸化破壊というマイナス面を生物にもたらした。その結果、酸素障害をひきおこす「活性酸素」をいかに制御するかが生物にとって克服すべき最重要課題の一つとなった。

生体内における活性酸素の研究は、1960年代初頭のFridovichらによるスーパーオキシドラジカルとその不均化酵素であるスーパーオキシドジスムターゼの発見に始まる。当初これらは、殺菌などの生理的な役割のみが考えられていたが、その後Steinbergらによって「酸化変性した血中のリポタンパクが動脈硬化をもたらす」とする仮説が1989年に発表されるなど活性酸素と疾患とのかわりが精力的に調べられ、このスーパーオキシドから二次的に派生する種々の活性酸素や過酸化脂質の生成が、動脈硬化や虚血-再灌流障害などの血管障害や、炎症、ガンなど様々な疾患の成因として大きな注目を集めるようになった。生体内でスーパーオキシドは主に次の二つの系で産生される。一つは虚血などによって活性化されるキサンチンオキシダーゼが生成する系で、傷害を受けた細胞から血中へ流出したキサンチンオキシダーゼは血流再開時にスーパーオキシドを生成して血管内皮細胞などに障害をもたらす。もう一つは炎症などにおいて白血球やマクロファージなどが活性化され、これらの食細胞のNADPH-オキシダーゼによって産生される系である。私はこれら二つの系で生成するスーパーオキシドによって生体膜の脂質が酸化傷害される機序を明らかにするとともに、整形外科や産婦人科、外科など臨床の先生と協力して、活性酸素や過酸化脂質の生成が脊髄圧迫による虚血性運動機能障害や子宮胎盤虚血による胎仔仮死、肝臓移植の際の臓器保存による機能低下など虚血-再灌流障害の発現にどのようにかかわっているか、また、リュウマチ患者の関節炎におけるスーパーオキシドの役割などについてその解明に努めてきた。

一方、これら活性酸素による障害を防御するための研究も1980年代に入って盛んに行われるようになる。その先駆けとなったのがビタミンEの研究で、元来、食用油の酸化を防止する抗酸化剤として用いられてきたビタミンEが、生体内でも膜の脂質の酸化を防ぐ作用をしていることが1950年代の中頃にTappelらによって示唆されてからである。さらに1970年代の後半に至り、ビタミンEの代替作用を示すことが知られていたセレンが、過酸化脂質を特異的に分解する酵素(グルタチオンペルオキシダーゼ)の必須因子であることが明らかにされ、ビタミンEの生体内抗酸化説が確かなものとなるとともに、以後抗酸化の観点から新しい医薬品の研究開発が活発に行われるようになった。私はビタミンEが生体膜においてラジカルを捕捉して膜脂質の酸化を効果的に抑制する機構を明らかにするとともに、虚血-再灌流などの活性酸素が関与すると考えられる疾患の抑制にもビタミンEが効果のあることを見いだした。さきに述べた活性酸素が関与する疾患の研究で得た

知見やビタミンEによるその抑制の研究で得られた成果をもとに現在さらに、前述した活性酸素や過酸化脂質が関与すると考えられる疾患に対して異なった機作によって抑制効果を示す薬物の開発に努めている。

ビタミンEには、血管機能に対する作用などこれまで述べた抗酸化説では説明できない作用があり、また天然型と合成型で生理活性がなぜ異なるのかといった点も明らかではない。今後これらの点を明らかにしたいと考えており、また活性酸素・フリーラジカルに関しては、脳におけるこれらの役割を脳に作用する薬物を用いて調べたいと考えている。 (薬学部衛生化学教授)

『私の磨める一冊の本』

『余は如何にして基督信徒となりし乎』

広 渡 修 一

一真の寛大とは、余の解するところによれば、自分自身の信仰には不屈な確信をもちながらすべての正直な信仰はこれを許容し寛容することである。

一余はある真理は知ることができるといふ余自身への信仰と、余はすべての真理を知ることができないといふ余自身への不信仰とが、真の基督教的寛大の基礎であり、あらゆる善意とすべての人間に対する平和的關係との源泉であるのである。

『余は如何にして基督信徒となりし乎』の著者内村鑑三は、明治17年、23歳の時アメリカに渡り、ペンシルヴェニア州エルウィンの知的障害児の施設で一介の看護人としてあしかけ8ヶ月、身を粉にして働くことになります。冒頭の一節は、その院長であるドクター・ケルリンと彼のチャームングな夫人らとの共同生活を媒介にして鑑三が徐々にたどり着いた「理想」を述べたものです。

内村鑑三は、万延2年(1861年)、上州高崎藩の江戸詰め藩士金之丞宜之の長男として生れ、昭和5年(1930年)70歳で召天するまで、波乱万丈の生涯を雄々しく生き抜いた我が国屈指の思想家であり、無教会主義キリスト教の「先駆者」として知られています。

鑑三は、明治10年(1877年)、W.S.クラークの去った直後の札幌農学校に入学、明治14年(1881年)、「漁業もまた學術の一なり」といふ卒業演説を行って学窓を巣立つことになりませんが、卒業後の官吏としての生活に倦み上京、首都のキリスト教社会に飛び込みます。しかし、茶話会と求愛、賛美歌と感傷の教会生活に根底から疑念を抱き、「空虚な言葉」ではない「実践的の愛」を体得するため(離婚という私生活の破綻から立ち直ることも大きな要因でしたが)、内心の「真空」を満たすため、慈善事業の本場であるアメリカに旅立つことになるのです。

国交が開かれて間もない当時のアメリカには、既に日本人の留学生を受け入れる一種のサークルがあり、鑑三もまた、その一人であるウィスター・モリスという成功した実業家の世話になります。エルウィンへは、札幌時代鑑三に洗礼を授けたメソヂストの宣教師、M.C.ハリスの夫人フローラ・ベストの伯父が同行しました。モリスの紹介状が大いに役立ったことは想像に難くありません。

エルウィンでの慈善事業は、鑑三にとってある種のアンビバレントな体験であり、他者を救うよりもまず自らが助けられねばならないという「暗黒に圧倒され」、終にここを去ることとなります。

鑑三は、時あたかも在米中の旧知新島襄と面会し、その薦めによって新島の母校、アマースト大学へ進学することに決しました。アマーストは、いわゆるリベラル・アーツカレッジの有力大学で、当時は「牧師養成学校」として勇名を馳せていました。

明治18年(1885年)9月、鑑三は24歳にしてアマースト大学の第3年級に編入し、そこで生涯の「師」となる学長J・H・シーラーと邂逅することになるのです。

ドアが開いた。そして見よその柔和さを！大きながっしりした恰幅、涙をたたえた獅子のような目、異常に強い暖かい握手、歓迎と同情のもの静かな言葉、いや、これは彼を見るまえに余が心に描いていた姿、心、人ではなかった。余はただちに特別の平安を余自身のうちを感じた。

—我々の本当の間違ひは、神御自身のほかには何びとも我々を潔くすることができないのに、我々が潔くあろうと努力するそのことにあるということ、本当に自分自身を愛するものは先ず自分自身を厭いそして他人のために自分自身を与えるべきであるから、自己主義は本当は自己の憎悪であるということ、等々、等々、—以上のような、また他の貴重な教訓を、総長先生はその言葉と行為によって余に教えてくれた。

さて、アマーストを出た鑑三は、コネチカット州ハートフォード神学校に進みますが、四ヶ月足らずで退学し、明治21年(1888年)3月ニューヨークを出発、帰国の途につき、同年5月16日横浜に上陸しました。

内村鑑三の初期の代表作であるこの著書は、岩波文庫(上記の引用はすべてこの本から)や中央公論の「日本の名著」等によって容易に入手できます。

日米の体験的比較文化論としても重要であり、学生生活の友情や交歓を描いた浪漫主義文学の傑作としても鑑賞できます。世界宗教と切り結んだ真摯な魂の軌跡は、青年期に必読の価値を有しています。一度日本語訳で読み、しかる後に原文である英文に取り組みれるのが良いでしょう。明治期の日本人が、いかに高度な英語力を持っていたかに驚嘆するのは、一人小生ばかりではないと信じます。
(大学開放実践センター助教授)

『私の磨める一冊の本』

『地球の歩き方シリーズ』

(ダイヤモンド社)

二木史朗

もし、自分がもう一度大学の1年生に戻れるなら、と聞かれたら、きっと、外国に行ってみると答えるだろう。それも、いわゆるバック旅行ではなく、自分で計画を立て現地での移動、宿泊なども自力でする(＝相対的にお金がかからない、自分の見たいところを重点的に見て回れる)旅行である。

私が初めて外国に行ったのは大学院の修士2年生の夏休みであった。上記の「地球の歩き方」を片手に、リュックサックを背負い(当時これが貧乏旅行者のひとつのファッションであった)ヨーロッパに一人でかけた。私自身旅行が好きで、機会を見付けて日本もあちこち見て廻ったが、その時思ったのは、所詮、日本は日本であるということ。全く違う風土、それに伴う全く違う発想というも

のには、日本に居てはなかなか出会えないということである。たかが旅行、されど旅行。異国の地で、大げさに言うと、サバイバル体験をすることによって、再び日本の地を踏んだ時、何か今までとは少し違った物の見方が出来て来るように思う。幸いなことに、最近はやがてが相対的に他の国の通貨に比べだんだん強くなってきている。例えば、ほんの数年前1ドル=140~160円であったのが、現在では110円を切っている。単純に考えれば、数年前の約3分の2のお金で外国に行けることになる。飛行機代も運賃の安い春先なら、アメリカ往復10万円、ヨーロッパでも15万円位で済む(AB・ROAD(エービーロード)という雑誌を本屋で立ち読みしてみればよい)。私が学生であった頃に比べ、今や外国というのは、ずっと、ずっと、身近な存在となっている。必要なのは決心のみである。金がない—当たり前である。バイトを探す。酒、煙草、ガソリン代、彼女に貢ぐお金を少し控える。ついでにパチンコ屋に貢ぐのもやめる。そうすれば月に1万円くらいは貯まるのでは。一年で12万。うまくやれば20万。物価の安い東南アジアならこれで十分。アメリカにも手が届き出す。言葉がわからない—これも当たり前である。旅行者として見て回るだけならば、ちょっと詳しいガイドブックと地図、そして片言の英語といくばくかのお金さえあれば何とかなる。語学のことを気にし出したら一生外国なんかには行けなくなる。危険だ—確かに世界広しといえども日本ほど安全な国はない。しかし、自分の身は自分で守るという心構えを持って注意して旅をすれば、そんなにはトラブルに巻き込まれないのでは、と思う。大切なのは日本の外を見てやろうという好奇心である。

さて、そろそろ本の紹介である。上記のシリーズは世界各地をそこそこ安く個人で旅行したい人のためのガイドブックである。特にバスや鉄道など公共の交通手段の利用の仕方が他の本に比べて詳しく書いてあるのが嬉しい。もし行きたい国があれば上記の本を買う。あるいは立ち読みする。いくら位のお金が必要か、どの季節に行くのが適当か、どういう入国ルートがあるか、などがわかるはずである。ついでに、こういった貧乏海外旅行の古典的名作(といっても三十数年前の話であるが)“何でも見てやろう”(小田実, 角川文庫)や、まだまだ日本人にとって外国が今ほど身近でなかった時代の外国生活体験記, “ボクの音楽武者修業”(小澤征爾, 新潮文庫), “若き数学者のアメリカ”(藤原正彦, 同)など読んでみるのも面白い。“台湾鐵路千公里”(宮脇俊三, 角川文庫)は汽車に乗るのが大好きな著者が、日本から飛行機で2,3時間と近いのに、我々にはあまり知られていない台湾まで汽車に乗りに行った話。“香港 旅の雑学ノート”(山口文憲, 新潮文庫)からは、香港の猥雑な雰囲気が漂ってくる。“バリ島 不思議の王国に行く”(大竹昭子, 内藤忠行, 同)はなかなかエキゾチック。その他ゴマンという旅行記が文庫でも出ている。

学生時代はともかくヒマがある。毎日もそこそこ、おまけに夏休み約2ヶ月、春にも1カ月半。学生時代にはヒマは無限大にあるように思えるが、ひとたび社会にでると多少金回りが良くなるものの、1週間、2週間という単位での休みは滅多にとれなくなる。新入生の皆さん、この有り余る程の自由な時間を活かして、単なる旅行でいいからともかく一度日本の外に出てみませんか。

(薬学部附属医薬資源教育センター助教授)



『情報化への対応』

藤 森 末 雄

1. はじめに

昭和40年代後半から始まった大学図書館の業務電算化は、昭和61年4月の学術情報センターの設置に伴う全国規模での共同分担目録及び、ILLシステムによる学術資料の共同利用へと発展してきた。また、近年の計算機技術のめざましい進展により、図書館の電算システムも従来のメインフレーム型システムからクライアント・サーバ型システムへと移行しつつある。更に、学内LANを利用した新たなサービスの提供も行われるようになってきている。

大学図書館をとりまく最近の状況について、情報化という側面から述べるとともに、本学図書館の現状及び今後の計画についても触れたい。

2. 標準化

図書館界では古くから書誌情報の記述を統一するため目録規則を定め、これに従い目録業務を行ってきており、標準化という言葉には馴染みが深い。コンピュータ及び通信の分野でも今や標準化は最も重要なキーワードとなっている。

従来は、異機種コンピュータ間の接続が不可能であったために、特定メーカーにハード、ソフトともに依存せざるを得なかったが、ISO（国際標準化機構）ならびにCCITT（国際電信電話諮問委員会）が標準的規約を制定し、メーカーもこれに準拠した製品開発を行うようになったことにより、異機種間接続が可能となった。

また、一つの優れたシステム・技術が普及することにより、結果として標準化・一元化が促進される傾向も顕著である。ワークステーションの基本ソフトであるUNIXは、操作性、ネットワークとの整合性、拡張性等に優れ、また、オープンなシステムであるため、学術機関を中心に広く普及しつつある。UNIXマシンは通信プロトコルとしてTCP/IPを実装しているが、後述するように、TCP/IPによる通信はインターネットを介して世界的規模に及んでいる。

多くの大学図書館ではメーカーが作成した業務用パッケージソフト及び独自開発ソフトを併用して業務を処理しているが、これまでにパッケージソフトのカスタマイズやソフト開発のために、多大の人手と経費を注いできており、全国的に見た場合には相当な重複投資が行われてきたと言える。各大学にはそれぞれ固有の事情があり止むを得ない面もあると思われるが、今後、標準的なOSをベースに、特定メーカーに依存しない標準的ソフトの開発がなされたならば、業務の省力化・効率化に結び付くのではないかと考える。国立大学図書館協議会では、「大学図書館を取り巻く情報環境の変化に対応し、図書館情報システム並びに情報ネットワークに関わる各種問題を検討し、学術情報システムの発展に資する」ために、図書館情報システム特別委員会を設置し、現在検討が進められているが、その成果に期待したい。

3. ネットワーク

通信技術の進歩・標準化等に伴い、今日、ネットワークの時代を迎えている。世界約140ヶ国を結ぶ巨大ネットワークであるインターネットは、1500万～2000万のユーザを抱え、200万台以上のコンピュータが接続している。我が国でも、大学等のLANを相互に接続するインターネット・バックボーン（SINET）を学術情報センターが運用している。この他にも商用イン

ターネット等があり、利用者は今後ますます増加すると思われる。インターネットではTCP / IPにより、国内外のコンピュータにアクセスし、電子メール、ファイル転送等を行うことができる。

本年度は、ネットワーク化という面では画期的な年となった。平成5年度補正予算により、103の国立大学等にLANが敷設され、情報化社会に対応した基盤の整備がなされることとなった。今後、図書館もこうした情報環境の変化を受け、電算システムをLAN対応のシステムに移行することや、LANを利用した新たな情報サービスの展開が求められる。OPACはもちろん、CD-ROMやディスク等による各種学術情報を研究室等から検索できるようせまられている。また、インターネットを利用することにより世界各国の電子ジャーナル、新聞記事、プレプリント、海外の図書館のOPAC等が検索可能であり、図書館はこれらの情報資源をいかに活用していくかもこれからの課題と思われる。

図書館が情報環境の変化に対応していくためには、最新の計算機技術・通信技術の動向を理解し、その基礎的知識を有する職員をより多く養成していく必要がある。職員個々の自学自習の他に、これらの分野に関する教育・研修の機会の増加が必要と言える。

4. 図書館の現状及び今後の計画

本年2月、図書館専用電算機システムの更新を行った。オフィスコンピュータによる業務処理という点では従来のシステムと大差はないものの、今回はUNIXワークステーションを導入し、OPACシステムの開発・運用を行うこととした。4月以降にTTYモードでの、9月以降にフルスクリーンモードでの検索を可能にする予定である。また、電算システムについては、分散処理システムへの移行に向けて教育・訓練を行いたい。

本年度、本学にも待望の学内LANが敷設されることとなり、情報環境が一気に改善される。学内LANは、幹線ネットワーク(FDDI)と建物内の支線ネットワーク(10BASE5, HUB-情報コンセント間は10BASE2)から構成され、各団地間はマルチメディア多重装置を介して高速デジタル回線で接続される。これにより、図書館も新規の情報サービスを提供する環境が整った。本年度末にはCD-ROMサーバシステムが導入される予定であり、一定のテスト期間の後、研究室等からも検索が可能となる。また、このシステムを利用しカレントコンテンツも検索できるようにするため、現在検討を進めている。

今後に残された課題の一つに、図書データの遡及入力がある。平成2年2月の専用電算機導入以降、新規受入図書、開架図書を中心に約17万冊の図書が入力されたが、残り約45万冊が未入力となっているため、本学の所蔵状況を調べるにはカード目録とOPACの両方を検索しなければならない。45万冊の遡及入力を実現するためには相当の経費が伴うが、研究室等から全蔵書を検索できるようにすることは、本学の教育・研究上からも重要である。更には、地域との連携という意味から、郷土資料関係データを徳島県文化情報システム(COMET)に提供し、広く活用を図るといったことも考えられる。図書館の遡及入力事業にご理解とご支援をお願いする次第です。
(情報サービス課長)

Ondisc検索とOnline検索

～蔵本地区のCD-ROMサーバ・システムの導入にあたって～

折原善彦

1. Ondisc 検索の利用形態

CD-ROM に書き込まれた情報を検索することを、Online 検索に対して Ondisc 検索といいます。CD-ROM は、もうポピュラーなデータ媒体となりましたが、その CD-ROM を運用する形態は、一台の検索端末で利用するスタンド・アロン型に加え、複数台の検索端末で利用するネットワーク・サービス型が浸透しつつあります。

蔵本分館では、従来スタンド・アロン型でサービスしていましたが、予約待ちが生じる状況でした。それを解消するため、CD-ROM サーバ・システムを導入することになりました。このシステムはネットワーク・サービス型で、蔵本地区はもとより、常三島地区からもアクセスが可能なシステムです。

2. システムの概要 ☞「CD-ROM サーバ・システム概念図」参照

今回のシステム導入に当り、蔵本分館内での検索端末を3台にアップしました。これにより、図書館内で利用する教職員、大学院学生、学部学生の皆さんの利用も容易になるものと思われます。また、常三島地区の本館にある検索端末1台もFDDI、マルチメディア多重化装置を通じて検索する方式に変更する予定です。これまでに比べて、より安定した通信ができます。

なお、研究室のパソコンも、ネットワーク・インターフェース・カード(NIC)を装着して「キャンパス情報ネットワーク」(以下、「学内LAN」という)に接続することにより、当システムへのアクセスが可能になる予定です。現在のところ、UNIXワークステーションからのアクセスはできません。

3. サービス内容

利用できるデータベースは、SilverPlatter社のMEDLINEです。1966～現在までのデータベースが検索できます。

分館内のサービス開始は、分館の増改築工事が行われることになり、当初の計画(平成6年度当初)より若干遅れそうです。また、研究室へのサービスにつきましては、学内LANの通信プロトコルとして、IPX(PC98シリーズ、IBM-PC用)、AppleTalk(Macintosh用)が承認され次第、動作確認後、順次開始する予定です。

利用申込手続等、詳細は、分館情報調査係(TEL 6520)にお問い合わせください。

4. Online 検索 ～NACSIS-IRのメリット ☞「別表」参照

さて、Ondisc 検索より歴史の古いOnline 検索も相変わらず健在です。従来からOnline 検索では、電話回線使用料金、接続料金、ヒットチャージ等の料金が高額?なため、敬遠されがちでした。しかし、最近、学術情報センターの情報検索サービス(NACSIS-IR)がJICST(日本科学技術情報センター)と提携し、月額基本料金なしでJICSTのファイルを使用することができるようになりました。ファイル一覧および料金等は別表のとおりです。そのうち、MEDLINEは暫定的に特別低料金で利用できます。なお、JICST以外のNACSIS-IR本来のファイルにつきましては、館報の前号に掲載されていますので、ご覧ください。

Online 検索のメリットは、データの鮮度にあります。ちなみに、MEDLINEのデータ更新頻度は、CD-ROMが月1回なのに対して、Onlineは週1回となっています。最新の情報を得たい

方には、Online 検索をお薦めします。

5. NACSIS-IR 経由での JICST ファイルの利用手続

NACSIS-IR の利用申請，JICST の利用申請が必要です。

利用資格は，大学の研究者，図書館職員，大学院生等，となっています。残念ながら，学部学生の方は利用できません。

なお，従来の公衆電話回線を通じてのアクセスにプラスして，学内LANおよび学術情報ネットワークを経由してNACSIS-IRにアクセスする方法もあります。学術情報センター利用手続についての詳細は，学術情報係（TEL6151）にお問い合わせください。

6. Ondisc 検索とOnline 検索の共存

このように，CD-ROMサーバ・システムとOnline検索はそれぞれ長所があり，必要なデータの緊急性に応じて使い分けるのがより良い利用方法といえるでしょう。

学内LANが整備されましたので，どちらも利用しやすい環境になったといえます。自ら検索するのが最も効率的ですので，ぜひチャレンジしてみてください。

（情報サービス課学術情報係長）



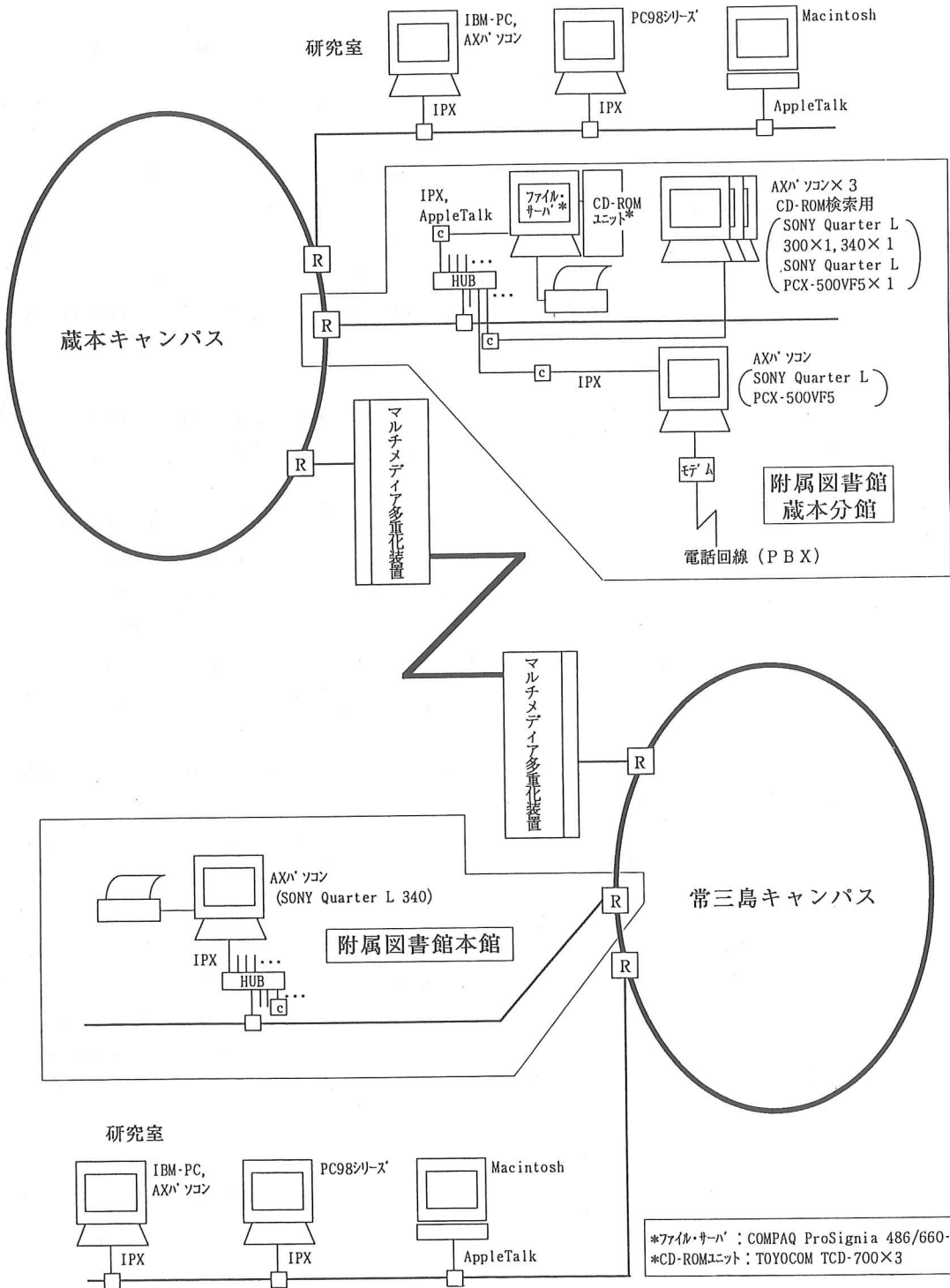
N A C S I S - I R から利用できる
J I C S T の デ ー タ ベ ー ス の 種 類 と 料 金

No.	データベース名	接続料	オンライン出力料	オンライン出力料
1	JICST 科学技術文献ファイル	155 円 / 分	65 円 / 件	80 円 / 件
2	JICST 速報ファイル	155 円 / 分	40 円 / 件	35 円 / 件
3	JICST 科学技術研究情報ファイル	155 円 / 分	60 円 / 件	63 円 / 件
4	MEDLINE 医学文献ファイル	90 円 / 分	25 円 / 件	49 円 / 件
5	JICST 資料所蔵目録ファイル	50 円 / 分	—	—
6	JICST ・ 医中誌国内医学文献ファイル	165 円 / 分	70 円 / 件	74 円 / 件
7	JICST 科学技術医学文献ファイル(英文)	150 円 / 分	60 円 / 件	61 円 / 件
8	日刊工業記事情報ファイル	182 円 / 分	63 円 / 件	88 円 / 件
9	日経産業新聞ファイル	182 円 / 分	63 円 / 件	88 円 / 件
10	大阪市都市工学情報ファイル	155 円 / 分	55 円 / 件	80 円 / 件
11	TOXLINE 毒性文献ファイル	154 円 / 分	30 円 / 件	55 円 / 件
12	CANCERLIT がん文献ファイル	90 円 / 分	25 円 / 件	49 円 / 件
13	MeSH 医学用語ファイル	50 円 / 分	—	—
14	IRRD 道路文献ファイル	155 円 / 分	40 円 / 件	65 円 / 件
15	INFOTERRA 環境情報源ファイル	155 円 / 分	40 円 / 件	65 円 / 件
16	原子力情報ファイル	—	—	—
17	研修ファイル	—	—	—

- 注 1. 一覧表のうち、No.1～4については、NACISIS-IR利用料金と同一料金（接続料：50円分，オンライン出力料：13円/件，オンライン出力料：13円/件）で利用できます。
2. 割引料金の適用を受ける利用者は、学術情報センターの利用者のうち、大学、短期大学、高等専門学校、大学共同利用機関等に所属する者、となっています。
3. 研修ファイルは、「JICST科学技術文献ファイル」、「JICST・医中誌国内医学文献ファイル」および「MEDLINE医学文献ファイル」の練習用です。
4. オフライン手配料（600円/回）などその他の料金は正規の料金となります。

この「別表」は、学術情報センターの刊行物から引用させて頂きました。

CD-ROMサーバ・システム概念図



*ファイル・サーバ: COMPAQ ProSignia 486/660-1050
 *CD-ROMユニット: TOYOCOM TCD-700×3

『図書館電算システムについて』

庫元孝文

平成6年2月に業務用電算機の更新を行いました。そこで、当館の電算化の推移と今回の更新の特徴などについて記したいと思います。

当館の業務電算化は昭和59年4月の閲覧業務の電算化に始まりました。その時導入された電算機は、富士通製FACOM EDS-Vでした。

その後、学術情報センターによる目録システムの本格的稼働等により、当館もそれに対応した図書館電算システムを導入することになり、平成2年2月富士通製FACOM K-650/30及び図書館用パッケージソフトウェアK-ILISを導入しました。また、学術情報センターとの接続にはNTTのDDX-P回線を使用することとしました。

その後、平成3年4月からは雑誌受入システム、OPACシステムの運用を開始し、平成4年1月には学術情報センターとの接続を、本学情報処理センターの回線多重化装置(FETEX 5100A)を介し、大阪大学のノード経由で学術情報ネットワークを利用する方式に変更しました。平成4年4月に学術情報センターのILLシステムに参加し現在にいたっています。

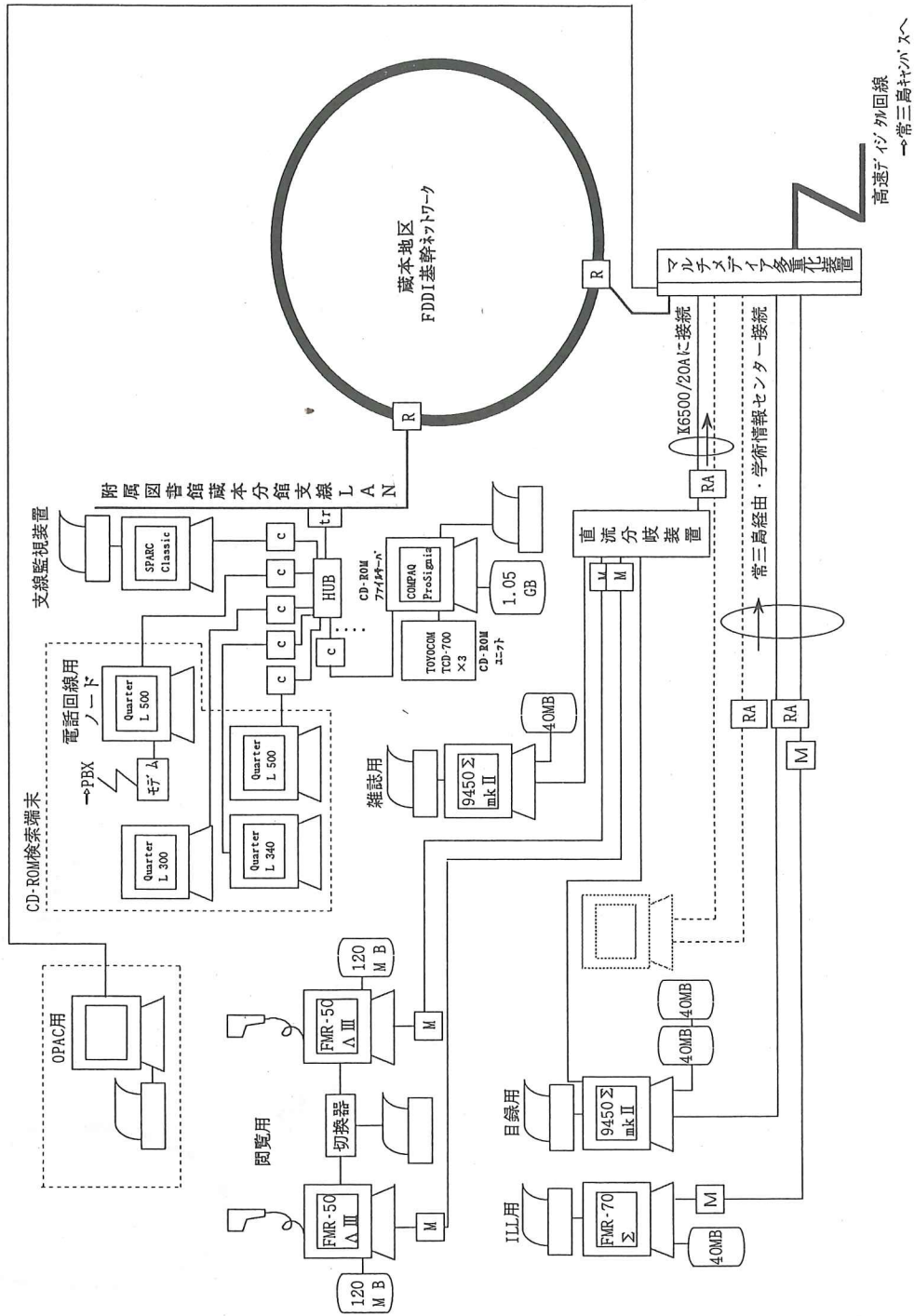
ところで、今回当図書館にとって三回目の電算システムの導入となるわけですが、基本システムについては、前回のシステムと変わるところはありません。しかし、今回の更新の特徴としては、部分的にUNIXを導入したことにあります。特に、今回のUNIXの導入は、図書館利用者にたいしての情報提供機能の高度化を図ることが目的です。現在、情報処理センターの大型計算機を利用してOPACシステムの運用を行っていますが、検索機能や利用者のコンピュータ端末からのOPACシステムへのアクセスに色々な制約があり十分なシステムとなっていません。そこで、この度、導入したUNIXで、より柔軟でオープンなOPACシステムの開発を予定しております。具体的には、フルスクリーンモードとTTYモードによるUNIX版OPAC検索システムを開発し、学内LANを通じて情報提供機能の向上を目指したいと考えております。

最後に、図書館電算システムの動向について述べさせていただきます。最近のコンピュータ業界でも話題として取り上げられているように、図書館電算システムにおきましてもダウンサイジング、オープンシステム、分散システムの波が忍び寄ってきております。今回当館が更新しました汎用コンピュータを中心とした図書館システムは、間もなく旧世代のシステムとなり、その役を終えようとしています。それに換わって、UNIXを中心とした図書館システムの構築がなされようとしています。先進的な一部の大学図書館では、すでにUNIXによる図書館システムが運用され、また、導入が決定されているところもあるようです。当館は、今回の更新では色々な制約があり、UNIXによる電算システムの導入は出来ませんでした。次期システムに向けて模索をして行きたいと考えています。

なお、導入されたホストコンピュータとワークステーションの構成図を以下に記しておきます。

(附属図書館学術情報係)

徳島大学附属図書館電算システム構成図 2 / 2 分館側 平成6年3月現在



『図書館の活用法(その三)』

情報サービス課情報サービス係

「図書館の活用法(その一)」(No.47に掲載)に図書館が所蔵する資料の種類とその配置箇所及び全般的な利用方法について概略を説明し、(その二)から視聴覚資料の利用法をお知らせしています。

(その二)では、本館所蔵のLD(レーザービジョンディスク)のうち、映画、美術、建築関係のLDを紹介しましたが、今回は新入生を迎えた時期であるし、図書館の利用方法に関するビデオ「図書館の達人」を紹介しましょう。

「図書館の達人」(パート1)は、(1)図書館の機能 (2)文献検索の基礎 (3)雑誌記事の調べ方の3巻で構成されています。

図書館はレポート作成、試験勉強、日々の学習、調査、研究等に欠かせない存在です。その図書館を活用するための技術を具体的実例によって学べる内容になっています。

利用希望の方はサービスカウンターに申し出てください。

では、前回に続いてLDのうち宇宙、環境、地理、歴史等を紹介します。

1. 利用方法

- ① 所蔵リストは2階開架閲覧室に置いてあります。
- ② 利用の申込はサービスカウンターで受付けています。
- ③ 館内の視聴覚室を利用してください。
- ④ 館外貸出はしていません。ただし、音楽のCDのみ館外貸出をしています。
- ⑤ その他わからないことはサービスカウンターで尋ねてください。

☆ 音楽のCDはクラシック音楽中心で1,250枚程あります。

2. LD一覧

宇宙、地理、環境、歴史等 LD一覧

NHK 銀河宇宙オデッセイ			
	タイトル	時間	LD No.
1.	プロローグ 大星夜-はるかなる宇宙への夢	89分	316
2.	第一集 旅立ち、わが太陽系	59	317
3.	第二集 遭遇、超新星爆発	59	318
4.	第三集 接近、ブラックホール	59	319
5.	第四集 交信、はるかなるET	56	320
6.	第五集 飛翔、超銀河団	59	321
7.	第六集 遡及、ビッグバン	59	322
8.	第七集 帰還、母なる宇宙	59	323
9.	天空の星碧 Vision of Odyssey	41	324
10.	ザ ハレー彗星! The Halley's Comet	44	325

NH Kスペシャル 北極圏

1. 探検・マンモスの墓場	50分	334
2. 氷雪の民	50	335
3. 大氷海をゆく	50	336

NH K特集 大黄河

1. 第1集 遙かなる河源に立つ	100分	326
第2集 激流・筏下り		
2. 第3集 大いなる支流の遺産	100	327
第4集 知られざる異境の民		
3. 第5集 オルドスの興亡	100	328
第6集 地中の百万都市		
4. 第7集 民族と文明のゆりかご	100	329
第8集 暴れ龍を治める		
5. 第9集 仏陀の道	100	330
第10集 大河・渤海に到る		

音楽：宗次郎 語り：緒方 拳

NH K特集 シルクロード第2部

1. パミールを越えて	50分	258
2. 覇王の道	50	259
3. 秘境のラダック	50	260
4. 玄奘三蔵 天竺の旅	50	261
5. 炎熱・イラン南道	50	262
6. 砂漠とコーラン	50	263
7. バグダッドの彼方へ	50	264
8. 湖底に消えた道～幻のイシクル湖に潜る～	50	265
9. 大草原をゆく	50	266
10. はるかなる大宛～天馬を求めて～	50	267
11. 消えた隊商の民～ソグド商人を探す～	50	268
12. 草原の王都～サマルカンド・プハラ～	50	269
13. 灼熱・黒砂漠～さいはての仏を求めて～	50	270
14. 絹と十字架～コーカサスを越えて～	50	271
15. キャラバンは西へ～再現・古代隊商の旅～	50	272
16. 騎馬の道はるか	50	273
17. アジアの果て絹の町	50	274
18. すべての道はローマに通ず	50	275

音楽：喜多郎 語り：石坂 浩二

NHK特集 海のシルクロード

1.	～序章～	出航	58分	276
2.	第1集	海底からの出発	110	277
		～地中海沈船の壺・アンフォラ～		
	第2集	ナイル・熱砂の海道	～地中海から紅海へ～	
3.	第3集	ハッピー アラビア	98	278
		～シバの女王国・北イエメン～		
	第4集	帆走・シンドバッドの船	～アラビア海に挑む～	
4.	第5集	十字架の冒険者	98	279
		～インド西海岸をゆく～		
	第6集	インド胡椒海岸		
5.	第7集	仏陀と宝石	～聖地スリランカ～	98 280
	第8集	黄金半島を越える	～インド洋からシャム湾へ～	
6.	第9集	海道の世界	98	281
		～ベトナム海岸2000キロ～		
	第10集	中国の門	～海南島から広州へ～	
7.	第11集	ジャンク、海都をいく	109	282
		～中国南海道～		
	第12集	長安に還る	～遙かなる長江の道～	
		音楽：センス 語り：伊武 雅刀		

NHK 地球大紀行 The Miracle Planet

	タイトル	時間	LD No.
1.	第一集	水の惑星・奇跡の旅立ち	110分 197
	第二集	引き裂かれる大地	
2.	第三集	残されていた原始の海	100 198
	第四集	奇岩にひそむ大気の謎	
3.	第五集	巨大山脈の誕生	100 199
	第六集	巨木の森・大地を覆う	
4.	第七集	恐竜の谷の大異変	98 200
	第八集	氷河期襲来	
5.	第九集	移動する大砂漠	100 201
	第十集	資源を産んだマグマ噴出	
6.	第十一集	多重バリアーが守る生命の星	100 202
	第十二集	太陽系第三惑星・46億年目の危機	
		音楽：吉川洋一郎 語り：桜井 洋子、山本 和之	

N H K 特集名作 1 0 0 選 地球環境編 I. 地球の危機

1. 核戦争後の地球	105 分	289
2. 地球汚染	110	290
3. 調査報告チェルノブイリ原発事故 コンクリート・クライシス	100	291
4. あなたはこんな水を飲んでいる 追跡 核燃料輸送船	110	292
5. 黒い雨～広島・長崎原爆の謎～ 仙台砂漠からの報告～問われるスパイクタイヤ～	95	293

N H K 特集名作 1 0 0 選 地球環境編 II. 自然の驚異

1. ポロロッカ・アマゾンの大逆流 大海嘯～中国・銭塘江の逆流～	100 分	294
2. 深海 6 0 0 0 メートルの驚異 ～初めて見た巨大地震の巣～ 海の帝王マンタ ～沖縄・巨大エイを追う～	95	295
3. これが鯨だ ～南極海に大群を追う～ 野性のシグナル	100	296
4. 悲劇の巨鳥 ～アホウドリはよみがえるか～ 襲撃 ～スズメバチの恐るべき生態～	100	297
5. これがハレーすい星の正体だ 霧の山・ネブリナ ～南米・進化にとりのこされた世界～	90	298

N H K 特集名作 1 0 0 選 地球環境編 III. 守りたい日本の自然

タイトル	時間	LD No.
1. 土佐・四万十川 ～清流と魚と人と～ 奥飛騨白川郷 ～合掌屋根を暮く～	100 分	299
2. 知られざる尾瀬 大雪山・花紀行 ～「神々の庭」の短い夏～	95	300
3. 椎葉・山物語 不思議の島湖沼群を潜る ～東シナ海甌島～	100	301
4. 遠野物語をゆく ～柳田国男の風景～	100	302
5. 豪雪地帯 ～新潟・松之山町の 1 0 日間～ 日本伝統漁法 ～荒海に生きる男たち～	100	303

N H K 昭和史

1. 事件と世相 前編、後編	283
2. 激動の中で子供たちは 女たちは歩む	284
3. 都市と村の歳月 スポーツヒーローたちの群像	285
4. 太平洋戦争 占領下の 2 5 0 0 日	286
5. 宰相列伝 天皇陛下	287

『図書館案内』

『本学教官著作寄贈図書』

(平成5年3月～平成6年1月受入)

本学教官が著書を出版された時は寄贈していただき、図書館資料として利用に供しております。次の諸先生方から下記の著作が寄贈されました。寄贈者の方々に改めてお礼を申し上げます。

著者	書名	出版社	寄贈者	配置箇所
経済学教育学会編	経済学ガイドブック	青木書店	中谷武雄	本館
村井道明	教育と人生—自伝—	徳島出版	村井道明	本館
森田雄介	眠りたい眠れない	講談社	森田雄介	本館
A. T. Tu	続身のまわりの毒	東京化学同人	中川秀幸	本館

他に、本学教官の「科学研究費補助金研究成果報告書」を下記のとおり受入しておりますので併せてお知らせします。

平成3年度分

総合研究 (A) 2点・一般研究 (A) 3点・一般研究 (B) 7点
一般研究 (C) 16点 計28点

平成4年度分

総合研究 (A) 1点・一般研究 (B) 10点・一般研究 (C) 15点
試験研究 (B) 9点 計35点



『 絵図(古地図)の複製について 』

附属図書館本館が所属している古地図(阿波国関係絵図)の複製絵図が、このほど完成しました。
この企画は、附属図書館の平成5年度事業計画の一つであります。

今回複製された絵図は、大半が江戸時代中期に作成されたもので、阿波国大絵図をはじめ、阿波国の郡・村の絵図、沿岸図等51点についてフィルム撮影後カラー印画紙に引伸ばしたものであります。

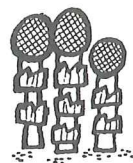
サイズでは大きいもので841×1088ミリ、小さいもので200×288ミリと原図に合わせた複製方法をとりました。

また、仕上がりも色鮮やかに原図に近く複製できましたので、利用には非常に便利になりました。
今後、所蔵資料としての重要性、又利用においても郷土史家等研究関係者にとっていついかなるときにも貴重な資料を十分に活用することができるので、研究の進展に大きく寄与するものと思われれます。

この事業は、元本学図書館専門員助岡君二氏のご遺族から、故人の意思にもつながるため図書館の充実に役立てて欲しいとの寄付金の申し出があり、古地図の複製事業として計画したものであります。

誌上をかり、助岡氏のご遺族のご篤志に対し深く感謝申し上げます。

なお、このことに関する詳細については、情報サービス課情報サービス係にお問い合わせください。



『学生用図書新着案内』

学生用図書を閲覧室に順次配架しております。

以下は平成6年1月～平成6年3月に閲覧室に配架したものです。

紙面の関係上、全部は紹介できませんので、その一部をお知らせします。ご利用下さい。

著者	書名
	(000)
中野 馨 バウトストーン, W	入門と学習 ニュートンコンピュータ ライフゲームの宇宙
	(400)
川合忠彦他	計算力学入門
砂田利一 テハル	基本群とラプラスアン 基礎熱力学
松村 温	光学
Myers, H. P.	固体物理学概論
Swalin, A. R.	固体の熱力学
セケル	古典物理学を創った人々
日本フジ学会	講座フジ 5 フジ制御
クワンソウ 他	構造・安定・ゆらぎ
鶴見明德	体育・スポーツ用英英事典
B. A. ストルフ 他	強誘電体物理入門
木谷 勝他	乱れと波の非線形現象
武田喬男他	水の気象学
村杉邦男	結び目理論とその応用
市村 浩	熱学演習 統計力学
鈴木達朗	応用光学 1, 2
高橋亮一	応用数値解析
林 健次他	パソコンによる流れ解析
フロント, S. 他	パソコンで学ぶ量子力学
西山 清	パソコンで解く加減算
W. キンツェルガッハ	パソコンによる地下水解析
中村育雄	乱流現象
Scient. Amer.	レーザー 1
滝澤精二	最新代数学と幾何学
	(500)
精密工学会	研削工学
日本原子力学会	気液二相流の数値解析

著者	書名
一宮亮一	機械系の音響工学
宗 孝	機械設計実務入門ノート
応用機械工学編	機械要素設計ガイドブック
小町 弘	機械図面のよみ方, かき方
土質工学会	近接施工
竹内 伸他	金属材料の物理
近藤政市	基礎自動車工学 前、後編
芳村敏夫	基礎振動学
近藤政市	基礎自動車工学
伊東弘一他	コンピュータの最適計画
東 昭	航空工学 1, 2
東 昭	航空工学 1, 2
後藤幸正他	コンクリート工学 2 設計
藤原忠司他	コンクリートのはなし
伊東 廣	これからのマシンデザイン
岸田敬三	固体の動力学
大塚政尚他	空調用ヒートポンプ
成瀬勝武他	橋梁工学 鋼橋編 第3版
武部健一	道のはなし 1, 2
長松昭男	モード解析入門
相原康彦	流れの力学-基礎と応用-
バーカー, R. 他	オートモビルデザイン 下
土質工学会	軟弱地盤の理論と実際
燃料電池発電編	燃料電池発電システム
本間泰則他	パソコンLAN 実戦絵とき読本
井上雅弘他	流体機械の基礎
グット, G. 他	最新 有限要素法全解
兼坂 弘	究極のエンジンを求めて
日本リモートセンシング	リモートセンシング用語辞典
精密工学会	精密工学便覧 新版
小林一輔	繊維補強コンクリート

著者	書名
	(000)
中国研究所編 メディア研究会	中国年鑑 1993年版 ハイパーカードアニメーションブック
	(100)
諸橋徹次	中国古典名言辞典
	(200)
溝手理太郎編	地名用語語源辞典
	(300)
竹内 宏編 田中英夫編 山田 晟	アンケート調査年鑑 1993 BASIC 英米法辞典 ドイツ法律用語辞典 英文日本大事典
日本経済新聞社 木寺 久他 エング、アードリッヒ	経済新語辞典 '94 日英米地方自治用語辞典 英仏独日四ヶ国語経済用語 辞典
森脇 上田 章他 河本一郎他 大阪市立大	英和経営経理辞典 法令キーワード辞典 法学用語小辞典 新版 経済学辞典 第3版
	(500)
Navy, U.S.	タイピングマニュアル
	(600)
住田照夫	中国貿易用語辞典
	(700)
角倉一朗編 平山都夫監修 飯島太千雄 ハイヤー、エリック	パッサハ事典 大英博物館 3 常用六体字典 日独英仏対照スポーツ科学辞典

著者	書名
	(800)
油谷幸利他編 明星大学 古城健志他編 小松 格	ブライト英和辞典 朝鮮語辞典 中国語基本語用例辞典 デンマーク語辞典 英語で引く日本語-ウズベク語 辞典
ショウスタック, リチャード 永田英男他編	英語類義語情報辞典 フィリピン語-日本語-英語 (併用) 辞典
和泉模久 金田一春彦編 王 曙光編著	フィリピン語の日常基本単語集 現代新国語辞典 現代中国語常用略語辞典 現代フランス語辞典 現代モンゴル語辞典
小沢重男 グランドルフ 他 田中秀央他編	現代日本語-インドネシア語辞典 邦・ラテン引用語辞典 新增補版
浜西正人編 岩波書店編 土井久弥編 末永 晃 松村 明他 樺島忠夫他編 坂本恭章 李 廣善 任 洪 戸谷高明監修	逆引き同類語辞典 逆引き広辞苑 ヒンディー語小辞典 インドネシア語辞典 辞林 21 事典 日本の文字 カンボジア語辞典 韓国語会話事典 類似語使い分け韓国語辞典 故事ことわざ活用辞典
	(その他)
吉川幸次郎他編	京都大学漢籍善本叢書 第1期 20巻

『会 議』

附属図書館運営委員会

第5回

日 時 平成5年12月13日(月) 15時10分から
場 所 附属図書館会議室
議 題 学内設備等充実費について

第6回

日 時 平成6年1月31日(月) 15時10分から
場 所 附属図書館会議室
議 題 1 平成5年度学生用図書購入費(第2次)配分(案)について
2 平成5年度外国雑誌購入費配分(案)について
3 平成5年度予算節約額について
4 情報処理センター運営委員会委員の選出について

『人 事 往 来』

退 職	廣 田 ますみ	分館情報サービス係	平成 6. 1. 14
採 用	藤 井 佳 代	”	平成 6. 2. 1
退 職	蔵 本 真由美	情報サービス係	平成 6. 2. 28
採 用	中 宅 里 織	”	平成 6. 3. 22

編集委員会：委員長・井上秀夫 委員・林 良夫，小野徳郎

発 行 徳島大学附属図書館

(〒770) 徳島市南常三島町2丁目1番地 徳島(0886)23-2310 内線(6111)

FAX 附属図書館(本館)(0886)55-9593 蔵本分館(0886)33-2950